

植栽に関するアンケート回答用紙 「Q2」に関する意見（別紙）

◎植栽樹種について、ハナミズキを選定することに、現段階では賛成できません。

（理由）

この道路は、新潟県にとって、貴重な新幹線駅前の基幹道路であり、シンボルロードです。その装いのしつらえ（街路樹）は、100年単位の時間軸と、広域の拠点としての風格を持つ景観軸の中で決定されなければならない重要課題です。

いわば、北信越の広域の拠点（質の高い新都市空間）として、上越市内のどこにもないような特別の風格を持ち、かつ100年先の歴史の評価に耐えうるものでなければなりません。

そのような歴史的かつ都市建設的意義（重要性）を無視して、目先の「維持管理の負担」の観点から選定することの愚かさを、まず問題にしたいと思います。

そもそも、地域住民代表が参加する「植栽検討会」を開催したこと自体は良いとしても、このような新潟県内トップクラスのシンボリック基幹道路の景観維持を、地元町内（あるいは沿道住民）に一部にせよ負担させることを前提にした議論をすること自体、根本的に間違っていると云わざるを得ません。

一部にせよ地元町内の管理を前提にする限り、上記のような意義は、初めから閉ざされてしまっていると言わなければなりません。

これでは、新幹線を迎える県（広域自治体）の大義も政策も知恵も皆無と言わざるを得ません。

さらに、風格性に加えて地域性（生態系や周囲との整合性）と物語性（歴史性）がなければ、新幹線のまちづくりとしての発展はかなわないでしょう。

ハナミズキは、これらの点にどのように適合するのでしょうか。

風格を感じさせる並木になるのでしょうか。

新幹線駅前（東口）の街路樹（並木）と整合がとれる並木になるのでしょうか。

長い目で見て、生態系に影響を及ぼすことはないのでしょうか。（というよりも、生態系の保全の観点から樹種を考えるべきではないのでしょうか。）

この木に、地元として、どのような物語性を付与することができるのでしょうか。

これらに対して、歴史の評価に耐えうるような納得のいく説明が無い限り、賛成することができないことを、重ねて述べておきます。

最後に、このような選択の余地のない「一者（地被類のみ二者）択一」のアンケートを行う限り、「結果は無効」と言わざるを得ず、意向調査の手法を含めて再考すべきと考えていますが、仮に「多数決」で強行されるとしても、本質的な異議を唱えた意見があったことを後世に明らかにしておくことの意味はあると思い、あえて問題提起したものです。

（大和2-10-25 石平春彦）